

年	児童の実態	授業改善の視点とその方策	2月検証
1	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな活動も意欲的に行い、あさがおの世話もきちんとやる。 ・身近な事象に対しての気づきが少ない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象の継続的、連鎖的な変化に気づき、深められるように観察時間を設け、意見を交流する機会を意識して設ける。 ・児童が学習カードを書くときには、事象をしっかり見て丁寧にまとめられるように声かけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動に意欲的に取り組むことができた。意見交流によって、自分が気付かなかったことを友達から学び、それを今後の学習に生かしていくことができた。 ・学習カードには、事象を捉えてまとめられるようになった。しかし、丁寧さには個人差がある。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話や町探検など、意欲的に学習に取り組むことができる一方で、「もっと知りたい」「もっとやってみたい」という思いにつながらない傾向がある。 ・1つの事象を他と関連付けたり、別の事象に気付いたりという点が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が進んで学習できる活動を児童の実態を把握しながら設定していく。 ・観察のポイントを指導し、互いの気づきを発表し合う場面を設ける。 ・身の回りのものやこれまで学習してきたことを想起するような発問や教材提示を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容により、グループを作ったり、個人にしたりと活動しやすくしたことで、意欲的に活動に取り組む姿が見られた。気付いたこと、工夫したことを発表しあう機会を多く設け、友達の意見を取り入れながら、更に自分の活動に繋げることができた児童も多い。